

産創交流

Innovation
marketing
interaction

豊かな自然環境、良質な農産物、恵まれた観光資源など多彩な魅力を持っている豊後大野市。「空き家バンク登録制度」などで移住者を支援し、新たな産業の創設も図っている。しかし持っている宝を生かし切れていないのが実情。そこで、さまざまな分野で活動している若手リーダーたちが「未来ある豊後大野市を創生するには今、何をすべきか」を熱く語り合った。



酒蔵

安住せず殻を破って前へ

地元にあるもの生かす

大塩 産創交流とは造語です。ここでは産業を創る、地元にあるものを生かす、といった豊後大野ならではのビジネスにつながるような話ができればと思っています。みなさんが思っていること、感じていることなどをざっくばらんに話していただき、魅力あるまちづくりを考えていきたいと思っています。まず自己紹介をお願いします。

佐藤 豊後大野市のまちづくり推進課で、移住、定住を担当しています。役所に入って17年目。地域では少年野球の監督や消防団の活動をしています。今日はハッピーが来るように話をしたいと思っています。

森 朝地町の牟礼鶴(むれづる)酒造という蔵元で焼酎造りと販売をしています。地元の酒蔵4社が独自で開くのがなかなか難しかった蔵開きを、「豊後大野巡蔵(めぐるくら)」というイベントを立ち上げて合同で開催しています。その実行委員長をしています。今年3月に4回目を開催し、今、手応えと課題が出てきたところです。

岩切 緒方町出身です。18歳まで地元で育ちました。祖母が緒方で昔の暮らしを表現した紙粘土の「絹さん人形」を作っていました。昔の良き時代を人形語りで残していきたいという姿勢に、子どもながらに感動していました。その影響を受けてか、私は今、地元の食材を使った豊後緒方町の鶏汁を皮切りに、大分県の素材を使ったスープシリーズなどの製造加工メーカーを運営しています。1次産業の方たちへの助けになればと意気込んでいます。今自分があるのは地元のおかげ、地元が育ててくれたという

若手リーダー
成美代表取締役
岩切知美さん

思いが強く、豊後大野を拠点にして活動していきたいと思っています。

西村 三重町で家具の工房を開いています。

私は姫島、妻は千歳出身です。趣味で家具を作っていたのが高じて、この道に入り、昨年3月豊後大野に移住してきました。工房を始めて1年、豊後大野の人たちはすごくいい人ばかりで、とても良くてくれます。それを声高に言いたくて今日参加しました。

松野 アドバイザーを務めさせていただきま。出身は別府市で、大分銀行から大分ベンチャーキャピタルに転向しています。先日、豊後大野市を回ってみて、ほんとに豊かな地だなという印象を受けました。ただそれが全く発信されていないため、周りの人が目を向けていないように思えて、もったいない気がします。

都心で考えられぬ強み

大塩 ありがとうございます。それでは本題に入りたいと思います。最初に豊後大野はどんなまちか、どんな魅力があるかなどを、みなさんそれぞれの立場から紹介していただきたいと思っています。地元在住歴が長い佐藤さんからどうぞ。

佐藤 大学時代の4年間を除いてずっと豊後大野に住んでいます。豊後大野で誇れるものはやはり、本物の水や空気、食べ物などがまず一つ。物以外では人の情、つながり、優しさです。地元の朝地の小学校では、地域の人や野菜の栽培の指導に学校に出掛けたり、交通安全の指導をしたり、地域全体で子どもたちを支えています。そういったところが豊後大野の良いところで、都会では考えられない強みでもあります。

大塩 その強みを続けるための課題はどうですか。

岩切 課題はいっぱいあります。私も豊後大野が大好きですが、でもこの地を出たからこそよく見えるという部分もあります。合併して10年

若手リーダー
豊後大野市まちづくり推進課副幹
佐藤寿幸さん

たつても、合併前のそれぞれの町村が持っているものが、なかなか溶け合わないという部分があるのではないのでしょうか。合併前の町村の良さをどうつなげて豊後大野市という一つのぐりにするかを考えなければならないと思います。観光地はあります。足りないのは食とお金を落とす場所、いわゆる物産品です。その3点セットを豊後大野市としてどう形成していくかが大きな課題だと思います。例えば湯布院は開発し尽くされてこれ以上のものを考える時、すごく悩むでしょう。しかし豊後大野は、まだ未開発の観光地なので伸び代があります。だからやれることはいっぱいあります。要はそれに取り組むかどうかです。

他業種絡める仕組みを

大塩 食とお金を落とす場所が足りない土地に努力をされている森さんにとって、ここが魅力だと思えるところはありますか。

森 巡蔵の取り組みの中で、お酒だけのイベントでは豊後大野を知ってもらえないと考え、それぞれの蔵元で地元の食材を使ったおつまみなどを用意しました。これが好評でした。今後、他業種が絡めるような仕組みを考えていけば、もっと発展していくのではないかと痛感しています。イベントでは三重町と酒蔵を回るシャトルバスや大分発、福岡発のツアーバスを組み込み、ケーブルテレビやラジオなどのマスコミにも取り上げていただきました。これからは、他の観光も絡めて、巡蔵をもっと広く使ってもらえるように考えていきたいですね。

岩切 巡蔵には何人かいるお客さんがいらつちやったのですか。

森 だいたい500人くらいです。三重町駅と各酒蔵を回るシャトルバス3台と大分発、福岡発のツアーバス

若手リーダー
牟礼鶴酒造専務
森健太郎さん

を組みました。ケーブルテレビやラジオなどのマスコミにも取り上げていただきました。今後他の観光も絡めた酒蔵巡りもおもしろいでしょうし、もっと広く使ってもらえるように考えていたらと思っています。

大塩 西村さんは外部から移住されて来られて、豊後大野のイメージをどう捉えていますか。

西村 豊後大野のイメージは、畑と田んぼ、里山、それに朝倉文夫記念館に代表されるように文化の薫りといった雰囲気が一番です。今もイメージ通りで、当初との違いは特にありませんが、一番感じることは、人が優しいことです。私はいままでいろんな地で住んできましたが、豊後大野の住みやすさは異常なほどです。今年4月から、夕方5時に市内に流れるチャイムが豊後大野市のテーマソングになりました。市の広報に掲載された歌詞を読んで、私は衝撃を受けました。市のイメージソングといえば、元気な活気あふれる曲というのが一般的だと思うのですが、「疲れたら帰っておいで、1人じゃなく2、3人連れて帰っておいで」といった歌詞なのです。すごいなと思いました。豊後大野の良さを代表した「癒やし」の曲で、これが豊後大野にある優しさだと思います。

若手リーダー
家具工房安誠社代表
西村正太さん

外からお金を持ち込む

大塩 豊後大野の魅力がたくさん出てきましたが、ただそのイメージが外に出ていないのではないのでしょうか。そんな中で、このまちの良さをどう掘り起こして、どんなまちにしていけるか、いいかを考えていきたいと思っています。それぞれの意見を聞かせてください。

岩切 豊後大野は非常に心地良くて、みんな満足しています。だから企業を取り込んで大変な

思いをするよりは、今のままのんびり行った方がいいと思います。次につながらないのです。今自分だけが満足していればいいという大人の独り善がりだと私は思います。これからの人たちがここで住みたいと思えるまち、そして住んでいけるようなまちになることを考えなければ、まちは無くなってしまいます。人の優しさなどは、きっとこれからも変わらなくあるでしょう。その上で経済面など、これからの人たちが住んでいける方向を考えなければいけません。そこを一步踏み出すことができれば変わっていくのではないのでしょうか。たとえば巡蔵にしても、豊後大野の中だけでなく関東や関西など県外にもアピールしていくことが大事です。県外の人が豊後大野に来て、外からお金を持ち込む。農産物や加工品もそうです。豊後大野の中だけで知ってもらえればいいというのは自己満足に過ぎません。県外にPRすることによって大分を見てもらう、売れば1次産業にも拡大が可能だし、県外からお金が入ってくれば潤います。みんな潤っていくことが大事です。

森 確かにその通りです。ただ、うちもそうですが市内の蔵元は、7〜8割が県外の販路。だから地元の人たちにも知ってもらうことの同時並行でやっていくことが大事です。東京や大阪の酒屋さんに行ったら豊後大野の酒が置いてあったと、地元出身の人から逆に返ってくるという効果もあります。

岩切 同時進行が必要ということですね。前例がないことをやるのは大変ですが、やらなければいいものは出てきません。食材が豊富な豊後大野は豊かな地で、可能性が大きいと思います。食がちゃんとできれば1次産業、加工業、土産品など他の業種にも波及が望めます。

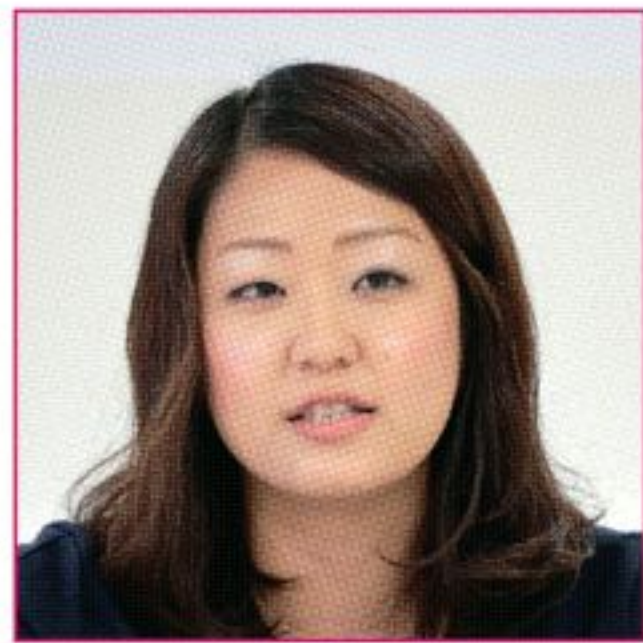
広めることに貢献したい

西村 私の場合、販路はほぼ県外です。でも豊後大野には良い木がいっぱいあります。昨年末から杉を使った家具を作っているのですが、それが結構好評です。どのくらいできるかわかりませんが、地元の材料を使った家具で、豊後大野を広めることに貢献できればいいですね。

佐藤 確かに今まで外に向けてアピールしていくことが最も欠けていました。これまで豊後大野が苦手だった「切り開いていく」ことに力を入れていくことが大きな課題ですね。同時にこれまで守り維持することに力を入れて来た人たちが大事にしていかねばいけないと思います。

岩切 そこが最後の目的地だと思います。外から来た人に、豊後大野が大切に守って残してきたものを理解してもらい、さらに将来性を考えられるようになるのを楽しみにしています。そういう観光地にしていくことです。ここには神楽もあるし、県外で巡蔵を開催する時、神楽も同時に紹介するなど方法はありますね。

松野 このままでいけばまちが無くなってしまいうんじゃないかという危機感が皆さんにあるようですが、では今後どういう方向に行けばいいのか。ざっくり言えば、子どもたちや若者が暮らしたいと思うまちになること。そのためには経済的に市民がきちんとお金を稼いでいける態勢が必要。また今ある文化的な部分を含めて、地元を守っている人たちとフロンティア的な人たちの両方が動きやすい形をつくり出すことをバックアップすることが挙げられます。ものは豊富にあります。出ず情報と得る情報の双方が足りません。他の市や県、海外などと比較して、自分たちに何が足りないのかという「気付き」が必要ではない

アドバイザー
大分ベンチャーキャピタル企業支援部
松野寛子さん

かと思っています。

一つになりきれない

大塩 経済的な部分を生み出すためにしなければならないことはどうのことだと考えますか。

森 巡蔵では、直接業者さんなどと協力できる仕組みが実現すれば、もっと進展するのではないかと思います。酒蔵だけのためにやっている企画と捉えられがちですが、そうではなく豊後大野市を発信するためにやっていると捉えられるようになれば、おのずと人は集まってくるでしょう。そうすれば豊後大野市の良さにもっと気付いてもらえ、巡蔵以外の時でも人が寄ってくるようになるのではないかと思います。ただ合併後、一つの市になりきれない面もあり、つながっているようでつながっていない所も多いのも現実です。

松野 外を知って、それによって自分たちのまちの良さが分かって、うまく自分たちのやり方に当てはめた方法を検討することですね。

岩切 1次産業者さんはもっと輝いていいのではないかと思います。1次産業がもっと盛り上がり、加工業なども連携し、その地域の産物もおのずと出てきます。今、残念ながら豊後大野には土産品などの特産品がありません。それがもったいないところであり、逆に可能性でもあります。ものすごく明るい未来ではないですか(笑)。

結び付け継続していく

佐藤 今から企業誘致に頼るのではなく、今あるものを生かす方向で産業化を図ることにより他にはないのではないかと思います。ここに住んでいる人が地元のものを利用しているか、地元の野菜を食べ、地元の交通機関を利用しているか、ということが大事ではないかと思います。

松野 キーワードは「結び付ける」ということです。

森 チューリップフェスタも地元の人がコソコソ球根を植えてこまできたのですから、そのイベントでよその地域のものを販売するのではなく、豊後大野の食文化や産物を全面的にアピールする場に利用しない手はありませんね。

大塩 力を合わせて豊後大野市を代表するイベントを創り出すことが第一ということですね。

松野 新しくつくるのは大変ですが、巡蔵やチューリップフェスタなど今あるものを活用して、もっともっと結び付けて継続していくことです。**森** さらにそれを発展・転化させる方法を考えていきたいですね。

コーディネーター
大分合同新聞記者
大塩信

攻めるという感覚も必要

大塩 それではそろそろキーワードを決めたいのですが。

佐藤 「つなぐ」はどうでしょう。「人と地域、未来と今 つないで見える豊後大野」という意味です。

全員 いいですね。それに前に進む、攻めるという感覚も入れたいですね。今まで破れなかった殻を破るという意味合いを含めて。

岩切 それも笑顔でね。

全員 うん、いいですね。そうしましょう。

大塩 それでは、キーワードは、「殻を破って前へ」にしましょう。皆さん貴重なご意見ありがとうございました。



夏の東京・横浜プラン、
そろい踏み。

人に話したくなる、
ひと夏の体験 はとバス。